

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001362		
法人名	(有)豊中オアシス		
事業所名	グループホーム桜塚オアシス		
所在地	大阪府豊中市南桜塚4-11-4		
自己評価作成日	平成25年5月5日	評価結果市町村受理日	平成25年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人が安全に明るく楽しい時間が送れる様に日々取り組んでいます。レクリエーションとして、クレープ作り、たこ焼き、お好み焼き、バーベキュー等、職員と一緒に創作し毎月の楽しみを持って頂いています。特に個別ケアへの充実を図るため、個々の希望や用途に応じ、外出、買い物、外食等を交えてストレスの解消、周辺症状の出現を防げる様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪急宝塚線「岡町駅」から西へ徒歩15分閑静な住宅街に平成14年度、当時看護師寮として使われていた建物を改装して当グループホームが開設された。建物は木造建てで土かべの環境が今まで利用者が住んでいた生活スタイルに近く、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと生活が出来るかと家族にも好評である。管理者と職員は日々「笑顔」を大切にしながら利用者が喜ぶ姿を大切に考えて日常生活の中に中庭でのバーベキューや焼きそば大会、回転寿し、喫茶店への外食行事などを取り入れている。又誕生日には個別に職員とともに外出、外食して日々の生活スタイルに変化を持たせたサービスを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しい家庭的な環境」「安心、快適、尊厳のある生活」「入居者様に応じた自立支援」「家族様と共に地域との関わりを大切に」を理念とし職員全員で日々取り組んでいます。	管理者は事業所独自の理念を職員と共につくり玄関に掲げ、サービスの在りかたの基本としている。スタッフ会議にて利用者への関わり方、接し方を理念に振り返り、むやみに手を差し伸べること無く見守り重視としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の行事や老人会の集いに積極的に参加する事で密度が深まり、気軽に声を掛けて頂いています。	地域の自治会に加入して老人会の会合に参加、事業所の夏祭りなどの行事案内をして参加を呼びかけている。高校の吹奏楽クラブに来てもらうなど計画中である。現在将棋の相手のボランティアさんを募集している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会や集いへの参加をしていくことで、何か約にたてる事を相談させていただきながら、出来る事を創作していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割合で民生委員、介護相談員、行政、家族様等来訪頂き、ホームでの生活、レクリエーション等の報告をし、理解を深めています。	運営推進会議は偶数月と決めて市の高齢福祉課、地域包括支援センター、校区福祉委員、介護相談員、民生委員、入居者家族、利用者が出席のもとに開催されているが昨年8月に管理者の交代があり5回にとどまった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉担当者と日頃より連携を密にする事で、日々のケアに対して協力体制が保てている。	市の高齢者支援課には利用者の書類申請代行や介護保険の申請に出向き困難事例などの相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉は、入居者様の安全を考慮し、施錠していますが、玄関扉は常に開放し好きな時間に庭に出られる様に見守りしながら、自由な環境を保っています。	身体拘束研修には法人の内部研修に出向き、その後伝達講習会を行っている。玄関は開放されているが2階フロアの出入り口や門扉は手動ロックになっており、職員は利用者の出かけた素振りには、即対応している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待行為はありませんが、職員のストレスや疲労等が蓄積しないような、シフトの設定に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている入居者様がおられますので、司法書士や弁護士の先生が来訪される機会があり、疑問に感じる内容に関して、相談出来るよう配慮しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の都合に配慮し、優先して日時を設定し十分に納得の上で契約頂けるようにしています。入居者様の心身の状況等事前に、確認させて頂き家族様との信頼関係を築けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し自由に書いて頂けるようにしています。	事業所は年2回、家族に向けてアンケートを実施している。そこから出された意見の中に「外に出してほしい」の要望があり、管理者、職員は真摯に向き合い、改善された事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者会議に参加し現場からの意見や要望を話し合う機会を設けています。	法人の管理者交流会が月1回開催されている。管理者と職員は3ヶ月に1度個人面談を行い職員の意見や要望などを聞く機会を設けている。職員からは「笑顔のあふれる施設にしたい」との思いがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事前に各自が希望を記入出来るようにシフト表を掲示し個々の負担の軽減を図り、スキルアップを希望する職員には積極的に提供しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での交流研修への参加を促し、介護感や知識、認識を高めていけるように、積極的に進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	身体状況や精神面の相違についての施設内での勉強会や、施設見学等を交えて質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やサービス利用時の様子を見させて頂き、本人様んぼ生活歴、趣味、生き甲斐等アセスメントし内容を十分理解し、共同生活が安心、安全に過ごせるように、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入居に至るまで、見学や相談等をさせて頂き、不安や要望について家族様の意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、相談員との情報交換を蜜にとり家族様、本人様を含め今後の生活に対し、話し合う時間を形成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	情報を共有し本人をより理解できるアセスメントは職員も参加し個別ケアの充実できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時間は制限なく、遠方の家族様に対しては、計画書や施設だより等を配布し近況の状況を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と1対1での外出や、食事、買い物等へ出かけ、又来訪頂けるように配慮しています。	これまでの行きつけの理・美容室や居酒屋、衣類の買い物に馴染みの商店やスーパーを利用している。以前からの友人、知人の訪問、電話での交流など、利用者は思い思いに過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格(気の合う方)の良い組み合わせを確認し席や外出等の関わりが図れるように工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣でのお住まいであれば、その後の様子や、お困りの事があれば、気軽に相談やお越し頂けるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者や周囲の職員の意見を抽出し、本人も交えて意向や要望を認識し、生活の質が向上できるように検討している。	契約時には自宅や病院に訪問してアセスメントを行い、好きな食べ物、行きたい所、趣味を聞いている。時には職員が同行して車で回転寿司を食べに行ったりして、一人ひとりの思いに添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を基に担当職員、ケアマネ間で共有し精神面や身体面の両面の安定、維持出来るように強めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰な介護、出来る事は時間を掛けても自分で行えるように、職員が個々に認識し自立支援を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員からの情報を共有しその人らしく日常生活が送れるように工夫しています。	契約時に本人、家族から聞いた希望や要望を基本にしている。入退院に際しては、即介護計画の変更をするなど、その時々ニーズを確認している。長期は6ヶ月に1回の介護計画の見直しを行い、本人、家族に印を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	精神面や身体面の変化、気づいた事を観察し対応方法を記録共有し、日々実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のストレスの解消法として、外出、散歩、買い物、外食等ニーズに合わせた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問介護相談員を毎月1回、ボランティアの受け入れ等相談事や、趣味を行かせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の意向に沿い係りつけの病院の継続、協力医療機関を受けて頂く場合は、本人、家族様の同意を得て週1回の往診を受けて頂いています。	従来のかかりつけ医を継続受診している4名を除いた利用者は、納得を得て協力医療機関を利用し、毎週1回の往診や月2回訪問看護師による健康管理を受けている。必要に応じて歯科、皮膚科の往診も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から各週で月2回訪問看護師が来訪し、健康・置き薬の管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療と連携し対応しているが、家族様の通院しやすい病院を事前に相談し、介護サマリー等の情報提供を速やかに送付し、早期退院できるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一定期間ごとに家族様へ様子の報告を行い、それぞれの思いや希望に添えるように、都度に確認をするように取り組んでいます。	「重度化や終末期に向けた事業所の指針」を入居時に本人、家族に説明し、事業所として対応できるケアの出来る事、出来ない事を説明して、同意を得ている。重度化した時の対応については状況の変化に応じて家族と話し合い、希望に沿えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、応急処置、救急要請、緊急連絡簿等分かりやすく、掲示、設置し日頃から実践できるように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から緊急避難経路の確認、整備、訓練を実施している。	7月に自主訓練、10月に消防署の指導の下での訓練を予定している。災害対策については日頃から、家具の固定化や避難経路の確認、設備点検は行なわれているが、地域住民との連携体制構築までには至っていない。	実際の災害時において適切、有効な動作が取れるように、年間を通じた訓練の繰り返しの実施や、地域の方々にも参加して頂き、具体的な協力体制の構築が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々入居者様への言葉掛けや対応方法について注意を配り、意識向上へ繋げている。個人情報の漏洩防止としては、全職員へ申し送りノートへ記載し署名を持って保存しています。	入浴や排泄時の対応や日常生活での声かけ、言葉使い等の接遇については、不快感を与えないよう毎月の職員会議時でよく話し合っている。個人情報の取り扱いも適切で、鍵付きの書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人様より意向、思い等を聞きだし、周囲関係職員は、思いが叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面への配慮をしながら、気候、気温を考慮し臨機応変に生活の質の向上の為、取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットのみならず、毛染め、パーマ、他衣類に関しても季節感のある衣類等提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや、配膳、又はおやつ作り等出来る範囲で参加して頂き、力が発揮できるよう支援しています。	法人の給食厨房で調理された料理を、週三回ケータリングで届けられる。職員が利用者の状態に合わせて味加減、きざみ食などにして提供している。職員は見守りを重視して、利用者と一緒に同じ食事が出来ていない。	庭でバーベキューをしたり、外食を取り入れるなど食の喜びの工夫もされているが、日常の食事では利用者と職員が同じ食卓で、同じ食事を美味しく共に食べることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、個々の嗜好を把握し個別対応が出来るように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、月2回の訪問歯科医による口腔衛生管理を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し能力を生かし、その都度不快感がないように、速やかに対応するように心掛けています。	個々の排泄リズムが記録されている「ケアチェック表」を、職員は把握して、時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄が出来るように自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や、食物繊維の含まれている食材を提供しながら、コントロールの難しい方に対しては、ドクター、看護師と相談し服薬にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体清潔確保のみだけでなく、リラックス出来る環境で入浴出来るよう工夫しています。個々に合った湯の温度に調整しゆっくり浸かって頂けるよう配慮しています。	基本的に週2回の入浴であるが、利用者の要望には柔軟に対応している。お湯はその都度入れ替え、本人好みの湯温で入浴剤、季節によっては菖蒲湯、ゆず湯で、個々に沿ったゆったりした支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度に日中に運動を取り入れ、レクリエーションでは歌を歌ったりして頂き、メリハリをつけることで安眠に繋げています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週の往診時にドクターと連携し、1週間の変化等を報告し、必要あれば都度に調整コントロールしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が本人を理解し、知りえた情報を共有する事で周辺症状が出現しないケアの実践に取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集いやお祭り、日常の買い物、散歩日頃あまり行けない所へ、職員と1対1にて外出し行動範囲の拡大が図れるよう支援しています。	天気の良い日には出来るだけ外気に触れ、四季の移り変わりを感じてもらうように近くの神社、公園、買い物に出かけるようにしている。利用者の要望には出かけられる範囲であれば電車や車で遠出し、本人の満足度を高める支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	業務スーパーやダイエー等へ本人の嗜好品の購入に向けて、自身での清算が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方については、職員が事前に家族様と連絡をとり、その後担当職員がサポートしながら対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体がレトロ調であり、かつ落ち着いた雰囲気ではあるも、清潔感は気を配り安心できる生活環境が保てるよう心掛けています。	木造建築の建物で、これまでの懐かしい実家での生活に近い家庭的な雰囲気の空間がある。廊下には利用者と職員の合作で季節の作品や楽しかった行事写真の掲示やテーブルや椅子、将棋版等が置かれて、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗濯場を整理し、開放感の持てる空間を確保し日光浴等、リラックス出来るスペース場を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族様の馴染みのある家具等を設置して頂き家族様来訪時は、ゆっくりくつろいで頂ける空間を作っています。	各居室に流し台、押入れが設置されて、馴染のタンス、テレビ、家族写真、趣味の作品、仏壇などが持ち込まれている。従来の生活が継続され、寛げる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口に手摺を設置し、出来る限りに安全に移動が叶うよう配慮しています。		